

一般演題

1. 大規模災害時のデンタルチャート

Record format of dental findings during a large-scale disaster

○佐藤 真歩, 藤原 尚樹*, 浅野 明子**,
工藤 義之**, 三浦 廣行**, 佐々木 信英*,
藤村 朗**

岩手医科大学歯学部3年, 岩手医科大学解剖学講座機能形態学分野*, 岩手医科大学口腔医学講座歯科医学教育学分野**

2011年3月11日の東日本大震災では多くの方が亡くなられた。その時、歯科医師は歯科医療支援のみならず、身元確認に重要な役割を果たしたことを令和2年度の基礎科学演習で知った。今回は震災当時、岩手医科大学から身元確認作業に積極的に参加された法歯学・災害口腔医学分野の熊谷章子先生にお話をお聞きし、現場では口腔内所見採取の環境が異なったことによる記載ミス、記録者により記載用語が異なったこと、各県ごとにデンタルチャートの様式が多少異なったこと、などにより、生前記録と死後記録の照合作業が難しくなったことを知った。

目的：様々な被災状況で実際に使いやすい、他県とのデータの共有が可能なデンタルチャートをPC入力フォーマットとして作成することを目的とした。

注目した項目：タブレットPCを用い、入力は専用ペンかタッチパネルによるものとした。タブレットに固執するのは写真機能があり、直ちにデータとして取り込むことが可能である。入力画面はFDI表記をもとに4分画歯種表記法を用い、歯や欠損の有無、修復物の材質などは入力は条件付き書式のフラグ形式(ブルダウン)を用いた。人による入力形式の違いを防ぐことが可能で、最低でも6~7本のデータを取ること、数十万人の組み合わせを作ることが可能になる。また、すべてのデータは他の情報(例えば、岩手県警察本部の東日本大震災津波関連情報(ポータルサイト)における不明者情報など)とのリンクが可能なフォーマットにする予定である。

結論：今回想定しているのは南海トラフ巨大地震である。内閣府の対策検討ワーキンググループ(第一次報告)による最大想定死者数は323,000人であったので、短時間で入力を終えることが可能な今回の項目数で十分すぎる組み合わせ数が確保できる。本デンタルチャートは追加入力も可能にする予定であるので、平時の身元確認のデンタルチャートとしても利用可能である。

2. 岩手医科大学口腔外科における過去5年のインシデント・アクシデント報告の分析

Analysis of incident and accident reports of the last five years in division of oral and maxillofacial surgery at Iwate Medical University

○小原 瑞貴, 川井 忠, 山谷 元気,
小野寺 慧, 角田 直子, 小松 祐子,
齋藤 勇起, 小泉 浩二, 平野 大輔,
古城 慎太郎, 大橋 祐生, 小川 淳,
宮本 郁也, 山田 浩之

岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野

目的：岩手医科大学口腔外科のインシデント・アクシデント報告を分析し、今後の医療安全向上に役立つ情報を収集することを目的とした。

方法：2015年4月1日から過去5年の報告を対象とした。分析項目は、発生年度、発生場所、発生月、発生曜日、発生時間、当事者経験年数、報告内容、レベル分類とした。

結果：総報告数は56件であり、年数とともに増加傾向を示した。発生場所は外来が多かった。発生月は夏季休暇の前後に多く、発生曜日は週末前後に多かった。発生時間は午後が多かった。当事者の経験年数に関係性は認めなかった。内容は、処方・薬剤関連の誤り、不要・不適切な検査や処置の施行、体内異物残存、パー破損、抜歯後歯質の残存、患者情報確認不足が多かった。レベル分類ではレベル1が最も多かった。

結語：本分析結果を参考にし、医療安全の向上に取り組みたいと考えている。